



## 今もなお受け継がれる千葉一族安産祈願の神社

千葉常胤ちばつねたねの三男胤盛たねもりは武石たけしし（現在の花見川区武石町）に居を構え、武石氏を名乗ります。三代王神社の祭神は天種子命あめのたねこのみことで、胤盛が地域の安全を願どうしんい、同神を祀ったことが始まりとされています。

戦国時代初めの千葉一族である馬加康胤まか・まくわりやすたねの奥方がお産の際、天種子命が夢枕に立ち「我は安産の守護神なり、守護すべし」と告げると、無事に出産したと伝わっています。神官を務めた小川采女うねめは康胤の家臣です。

文亀元年（1501）三代王神社と改め、馬加の素加神社まか・まくわり すか（子守神社こまもり）神官が兼務しました。文政8年（1825）の遷宮では神楽を奉納しています。

「三代王神社の神楽」（市指定無形民俗文化財）は、三山神楽みやま（船橋市三山の

二宮神社じゅうにざかぐら十二座神楽）の系統であり、2月11日と春・秋の例祭では十種類の神楽が奉納されます。

「下総三山の七年祭り」（県指定無形民俗文化財）は数えて七年目にあたる丑うしと未ひつじの年に行われる、康胤の奥方にまつわる安産子育て祈願の祭りで、三代王神社は幕張の浜の磯出式いそでしきで産婆役を務めます。

千葉一族の武石氏・馬加氏に関する伝承は、今も地域の信仰や祭礼として受け継がれています。



三代王神社の神輿



里神楽奉納